

★病気について知ろうシリーズ★

風疹

■風疹とは■

発熱・発疹・リンパ節腫脹を特徴とする、ウイルス性発疹症です。感染から14-21日の潜伏期間後、発熱・発疹・リンパ節腫脹（主に後頭部・頸部・耳介後部）が出現しますが、発熱を伴うのは半数に見られる程度です。感受性のある妊娠20週目くらいまでの妊婦さんが感染すると胎児におよび、先天的な様々な症状が現れる先天性風疹症候群が出現することがありますので、妊娠する前に感染予防に必要な免疫をつけておきましょう（ワクチンの接種）

■原因■

風疹はウイルスの飛沫感染により起こるものです。

※飛沫感染とは：呼吸することにより感染（くしゃみ等）感染力はさほど強くなく、感染しても発症しないで治る場合もあります。

一度罹ると免疫ができるので罹らないと言われていますが、2度感染する場合も稀にあります。



■症状■

全身にできる赤い発疹と発熱が特徴的です。

発熱や発疹の前に、頸の後ろのリンパ節が腫れが起こってきます。小さく赤い湿疹は顔にでき、手足体へ広がっていきます。手足に発疹ができ始めると、顔の発疹は消えやすくなります。

全ての発疹が消えるまで3-5日かかります。

■対策■

★子供の場合★

安静にすることが第一です。他の子にもうつさないように、おうちでゆっくり休みましょう。

発疹はかゆみを伴う場合が多いので、かゆみ止めなど工夫してみてください。

かきむしってしまうと、痕になってしまうので気を付けましょう。

1歳を過ぎると予防接種が可能になるので、集団行動をする年齢になる前にすませておきましょう。

★大人の場合★

風疹自体の薬はないので、子供同様家での休養が必須です。熱が高い場合、熱さましを使うことがあります。3日程度で熱も引いてくるので自宅で頭を冷やしたりするなどして様子を見ましょう。

ただし、頭痛がひどく、熱が長引く場合は1日3回熱を測り、気になる症状をメモをとり、医師に伝えましょう。妊婦における風疹の感染は胎児に影響を及ぼすので、妊娠の可能性のある女性は早めに免疫をつけておきましょう。予防接種をした後2カ月くらいは、妊娠しないように気を付けてください。

また、成人女性の予防接種は、接種して1週間後くらいに関節痛がでることがあります。

★予防接種後の注意★

- ・他の予防接種を受ける場合は、4週間以上経ってから受けるようにしましょう。
- ・予防接種後は激しい運動は避けましょう。
- ・お風呂は入っても大丈夫ですが、注射したところをこすったりしないように気を付けてください。